

田沢小学校校歌

作詞

阿部襄 (のぼる) 氏

歌詞作成のながれ・歌詞が作られるまで

昭和四十年 二月十四日 の日付

3 4

雪どけの雑木林の  
木の光  
白く咲くのは一輪草

雪どけの雑木林の  
日だまりに  
咲くは

この春光 (先) の喜びを

(白い) 菊咲一輪草  
この晴れやかな喜びを

みんなは心にもっている  
ここで育った私たちの  
ここは田沢小学校

みんなは心にもっている  
ここで育った私たち  
みんなの田沢小学校

取りまく嶺の

奥 あたりをかまむ

奥深く連なる山の

奥深く ゆるる林の

続く山山

山々の かまむみどりの

深緑

土い緑 続く

遠く鳴くのは小鳥たち  
みんなは心にもっている  
この変わらない静けさを  
ここで育った私たちの  
ここは田沢小学校

中 甲で鳴くは、小鳥たち  
この限らない 静けさを  
みんなは心に持っている

3 4

すきとおる水が溢れぬ

いっしょに育った私たち

せらぐ

同じに育った私たち

谷川の

みんなの田沢小学校

岸に香は、百合の花

(ここは)

この清らかな気高さ  
みんな心にもっている。  
ここで育った私たちの  
ここは田沢小学校

2月14日

二月十六日 二月十七日 原稿

雪どけの雑木林の日だまりに  
咲くは、菊咲一輪草。

晴れやかな

この(春先の)喜びを、  
みんなは、心にもっている。  
いっしょに

ここで育った私たちの、

が

ここは、田沢小学校。

とおく連なる

奥深く 続くみどりの山々の、  
森で

中で鳴くのは、小鳥たち。

この限らない静けさを、

みんなは心にもっている。

いっしょに

ここで育った私たちの、

が

ここは、田沢小学校。

溢れる

すきとおる水のせせらぎ谷川の、  
岸に匂うは、百合の花。  
その清らかな気高さを、  
みんなは心にもっている。  
いっしょに

まが育った私たちの、

が

ここは、田沢小学校。

キクザキイチリンソウ  
ウの花のスケッチ

ツウドリ、ユグミ、三光鳥

2月16日

2月17日 (㊦)

二月二十日の原稿より

雪どけの雑木林の日だまりに  
咲くは 菊咲一輪草。

この晴れやかな喜びを、  
みんなは心にもっている。

ともに あそんだ

ここで育った私たちの  
たのしい

ままは 田沢小学校。

イキ

岩にも？

茂み みどりに

山々 嵐にも

奥深く続くみどりの山々の

みどりよくなる

中で鳴くのは、小鳥たち。

(この変わらない根強さを)

この限らない静けさを  
みんなの心にもっている

ともに 学んだ

ままで育った私たちの

ここは田沢小学校。

嵐すぎ

にも

嵐しす

嵐すぎれば

やがて晴れれば深みどり

この限らない根強さを

する い山々

嵐くも 遠い山なみも

嶺は

みどり

みどりはいよいよ深くなる

くまげなる

この変わらぬ根強さを

限らない

みんなは心にもっている。

すきとおる水の溢れる谷川の

岸に匂うは、百合の花

この清らかな気高さを

みんなは心にもっている。

ともに

ままで育った私たちの

ここは田沢小学校

雲ゆけば

2月20日

二月二十一日 原稿

雪どけの雑木林の日だまりに  
咲くは、菊咲一輪草  
この晴れやかな喜びを  
みんなは心にもっている。  
(こうして)

ともに遊んだ 私たちの  
ここは田沢小学校

（山なみ）

嵐する遠い山々雲行けば  
嶺はいよいよ深みどり

（くじけない）

この限らない 根強さを  
みんなは心にもっている  
(こうして)

ともに学んだ 私たちの  
ここは田沢小学校

すきとおる水が溢れる谷川の  
岸に匂うは 百合の花  
この清らかな気高さを  
みんなは心にもっている。  
(こうして)

ともに育った 私たちの  
ここは田沢小学校

2月21日

雪どけの雑木林の日だまりに  
咲くは、菊咲一輪草

この晴れやかな喜びを

みんなは心にもっている。

こうして遊んだ 私たちの

ここは田沢小学校

雨風のかすむ山々

吹き荒れる

嵐する遠い山々雲行けば

雨風にかすむ山々

嶺はいよいよ深みどり

この限りない 根強さを

みんなは心にもっている

こうして学んだ 私たちの

ここは田沢小学校

雨風にかすむ山々、雲行けば、

雨風にある山でも雲行けば、

雨風の山も雲去り、日がさせば、

嶺はいよいよ深みどり

この（限りない）根強さを

山峰

すきとおる水の溢れる谷川の

深緑

岸に匂うは 百合の花

この清らかな気高さを

みんなは心にもっている。

こうして育った 私たちの

ここは田沢小学校

## 田沢小学校校歌（案）

雪どけの雑木林の日だまりに、

咲くは、菊咲一輪草。

この晴れやかな喜びを、

みんなは心にもっている。

こうして遊んだ 私たちの、

ここは田沢小学校。

の山も雲去り 日がさせば

雨風にかすむ山々雲行けば、

みね峰

嶺はいよいよ深みどり。

かま わきあがる

この限りない 根強さを、

みんなは心にもっている。

こうして学んだ 私たちの、

ここは田沢小学校。

すきとおる水の溢れる谷川の、

岸に匂うは 百合の花。

この清らかな気高さを、

みんなは心にもっている。

こうして育った 私たちの、

ここは田沢小学校。

2月25日

田沢小学校校歌（案）

雪<sup>ゆき</sup>どけの雑<sup>ぞうき</sup>木<sup>きはやし</sup>林<sup>はやし</sup>の日<sup>ひ</sup>だまりに、

咲<sup>さ</sup>くは、菊<sup>きく</sup>咲<sup>さき</sup>一<sup>いち</sup>輪<sup>りん</sup>草<sup>そう</sup>。

この晴<sup>は</sup>れやかな喜<sup>よろこ</sup>びを、

みんなは心<sup>こころ</sup>にもっている。

こうして遊<sup>あそ</sup>んだ 私<sup>わたし</sup>たちの、

ここは田沢小学校。

雨<sup>あめ</sup>風<sup>かぜ</sup>の山<sup>やま</sup>も雲<sup>くも</sup>去<sup>さ</sup>り 日<sup>ひ</sup>がさせば、

峰<sup>みね</sup>はいよいよ深<sup>ふか</sup>みどり。

このわきあがる 根<sup>ねづよ</sup>強<sup>つよ</sup>さを、

みんなは心<sup>こころ</sup>にもっている。

こうして学<sup>まな</sup>んだ 私<sup>わたし</sup>たちの、

ここは田沢小学校。

すきとおる水<sup>みづ</sup>のあふれる谷<sup>や</sup>川の、

岸<sup>きし</sup>に匂<sup>にお</sup>うは 百<sup>ひゃく</sup>合<sup>ごう</sup>の花<sup>はな</sup>。

この清<sup>きよ</sup>らかな気<sup>け</sup>高<sup>たか</sup>さを、

みんなは心<sup>こころ</sup>にもっている。

こうして育<sup>そだ</sup>った 私<sup>わたし</sup>たちの、

ここは田沢小学校。